

## 美作地方のコガネムシ類目録

竹内幸夫

1. <i>Copris ochus</i>	Motschulsky	ダイコクコガネ	上斉原村
2. <i>C. acutidens</i>	Motschulsky	ゴホンダイコク	泉山, 上斉原村
3. <i>Liutomus thanaosoides</i>	Westwood	ツノコガネ	各地方
4. <i>Onthophagus ater</i>	Waterhouse	クロマルエンマコガネ	花知山
5. <i>O. foidens</i>	Waterhouse	フトカドエンマコガネ	花知山
6. <i>O. viduus</i>	Harold	マルエンマコガネ	泉山, 花知山
7. <i>O. atripennis</i>	Waterhouse	コブマルエンマコガネ	久米郡久米町
8. <i>O. lenzzi</i>	Harold	カドマルエンマコガネ	各地方
9. <i>Caccobius jessoensis</i>	Harold	マエカドコエンマコガネ	泉山, 花知山
10. <i>Aphodius haroldianus</i>	Balthasar	オオマグソコガネ	泉山, 八形峠他
11. <i>A. elegans</i>	Allibert	オオフタホシマグソコガネ	各地方
12. <i>A. nigerrimus</i>	Waterhouse	ヌバタママグソコガネ	泉山, 花知山
13. <i>A. rectus</i>	Motschulsky	マグソコガネ	泉山
14. <i>A. obsoleteguttatus</i>	Waterhouse	セマダラマグソコガネ	久米町
15. <i>A. solidus</i>			
<i>f. quadripunctatus</i>	Panger	ヨッポシマグソコガネ	泉山
16. <i>A. chokaiensis</i>	Nomura et Nakane	チヨウカイマグソコガネ	泉山
17. <i>Bolbocerosoma nigroplagiatum</i>	Waterhouse	ムネアココガネ	久米町
18. <i>Geotrupes laevistriatus</i>	Motschulsky	センチコガネ	久米町, 泉山等
19. <i>Serica orientalis</i>	Motschulsky	ヒメビロードコガネ	各地方
20. <i>S. gresea</i>	Motschulsky	ハイロビロードコガネ	各地方
21. <i>S. boops</i>	Waterhouse	ヒゲナガビロードコガネ	花知山, 後山
22. <i>S. similis</i>	Lewis	カハイロビロードコガネ	久米町
23. <i>Sericania fulgida</i>	Niijima et Kinoshita	ツチチャイロコガネ	新庄村
24. <i>S. kirai</i>	Sawada	キラチャイロコガネ	新庄村, 花知山
25. <i>S. lewisi</i>	Arrow	ルイスチャイロコガネ	新庄村
26. <i>Antoserica secreta</i>	Brenske	ススイロビロードコガネ	久米町
27. <i>A. castanea</i>	Arrow	アカビロードコガネ	津山市, 久米町等
28. <i>Lachnosterna kiotoensis</i>	Brenske	クロコガネ	各地方
29. <i>L. morosa</i>	Waterhouse	オオクロコガネ	久米町
30. <i>Pledina castanea</i>	Waterhouse	クリイロコガネ	津山市, 久米町
31. <i>Heptophylla picea</i>	Motschulsky	ナガチヤコガネ	各地方
32. <i>Pollaplonyx flavides</i>	Waterhouse	キコガネ	久米町
33. <i>Melolontha japonica</i>	Burmister	コフキコガネ	各地方

34.	<i>M. flater</i>	Arrow	オオコフキコガネ	各地方
35.	<i>Granida albolineata</i>	Motschulsky	シロスジコガネ	阿波村
36.	<i>Ectinohoplia obducta</i>	Motschulsky	ヒメハナムグリ	各地方
37.	<i>Hoplia connexis</i>	Waterhouse	アシナガハナムグリ	津山市他
38.	<i>Allomirina dichotomus</i>	Linne	カブトムシ	各地方
39.	<i>Eophileurus chinensis</i>	Faldermann	コカブトムシ	久米町
40.	<i>Abretus tenuimaculatus</i>	Waterhouse	チャイロコガネ	津山市他
41.	<i>Popillia japonica</i>	Newman	マメコガネ	各地方
42.	<i>Mimera splendens</i>	Gyllenhal	コガネムシ	久米町
	var. <i>corrusca</i>	Heiden	コガネムシ	久米町
43.	<i>M. costata</i>	Hope	オオスジコガネ	那岐山等各山地
44.	<i>M. testaceipes</i>	Motschulsky	スジコガネ	各地方
45.	<i>M. flavilaris</i>	Waterhouse	ヒメスジコガネ	久米町, 後山
46.	<i>Anomala octiescostata</i>	Burmeister	ヒラタアオコガネ	花知山, 久米町
47.	<i>A. cuprea</i>	Hope	ドウガネブイブイ	各地方
48.	<i>A. albopilosa</i>	Hope	アオドウガネ	久米町
49.	<i>A. multistriata</i>	Motschulsky	ハンノヒメコガネ	津山市他
50.	<i>A. rufocuprea</i>	Motschulsky	ヒメコガネ	各地方
51.	<i>A. daimiana</i>	Harold	サクラコガネ	津山市他
52.	<i>A. geniculata</i>	Motschulsky	ヒメサクラコガネ	津山市, 久米町
53.	<i>Phyllopertha irregularis</i>	Waterhouse	キスジコガネ	各地方
54.	<i>P. orientalis</i>	Waterhouse	セマダラコガネ	各地方
55.	<i>P. diversa</i>	Waterhouse	ウスチヤコガネ	津山市, 久米町
56.	<i>P. internata</i>	Arrow	アオウススジコガネ	花知山, 滝山
57.	<i>Torynorrhina unicolor</i>	Motschulsky	アオカナブン	各地方
58.	<i>T. japonica</i>	Hope	カナブン	各地方
59.	<i>T. polita</i>	Waterhouse	クロカナブン	久米町
60.	<i>Protaetia lenzi</i>	Harold	キョウトアオハナムグリ	久米町
61.	<i>P. brevitarsis</i>	Lewis	シラホシハナムグリ	各地方
62.	<i>P. orientalis</i>	Gory et Percheron	シロテンハナムグリ	久米町
63.	<i>Eucetonia roelofsi</i>	Harold	アオハナムグリ	各地方
64.	<i>E. pilifera</i>	Motschulsky	ハナムグリ	久米町, 津山市
65.	<i>Oxycetonia jucunda</i>	Faldermann	コアオハナムグリ	各地方
66.	<i>Glycyphana fulvipes</i>	Motschulsky	クロハナムグリ	津山市, 奥津等
67.	<i>Anthrachophora ruticala</i>	Burmeister	アカマダラコガネ	久米町等
68.	<i>Trichus japonicus</i>	Janson	トラハナムグリ	津山市, 久米町
69.	<i>T. succinctus</i>	Falla	ヒメトラハナムグリ	花知山, 久米町
70.	<i>Furatrachus doenitzi</i>	Harold	オオトラフコガネ	滝山, 阿波村
71.	<i>Nipponovalgas augusticollis</i>	Waterhouse	ヒラタハナムグリ	各地方
72.	<i>Dusyalgas tuberculatus</i>	Lewis	トゲヒラタハナムグリ	阿波村

4はるですが5との関連あり疑問に思っています。32は古い図鑑に頼つただけでまだ信頼できません。35は阿波村小学校標本中に見たので記しましたが自己の記録はありません。23は1♀を得たのみで中根先生に同定を願つたところまでないから確定できないがツチチャイロと思うとのことでしたので記しました。その他不明の種として得ているもので *Aphodius* (マダラコガネ属) 約4種, *serica* (ピロードコガネ属) 1種, *sericana* (チャイロコガネ属) 3種, *Mimera* (コガネムシ属) 2種, *Anomala* (ドウガネ属) 2種, *Phyllopertha* 属1種があります。ふん虫はまだ相当の種がいると思います。

## 備中産カミキリ採集品目録 (1962年度)

青野孝昭

さきに筆者は、1961年までに採集した備中産カミキリのうち、整理済みの記録を公けにしましたが、ここに1962年中に筆者が採集した備中産カミキリについて、再び、とりまとめて記録しておきたいと思ひます。なお、この報文中には本誌12巻2号に発表した高梁市臥牛山産の數種と、同定未了種は除外してあります。

## CERAMBYCIDAE カミキリムシ科

## PRIONININAE ノコギリカミキリ亜科

1. *Megopis (Aegosoma) sinica* (White, 1853) ウスバカミキリ  
倉敷市北浜町 1 ex., 27. III 燈火飛来.
2. *Prionus insularis* Motschulsky, 1857 ノコギリカミキリ  
高梁市玉川町大成 1 ex., 8. VII.  
アカマツ林林縁の草上を歩行中.

## LEPTURINAE ハナカミキリ亜科

3. *Lepta decipiens* Bates, 1884 キバネニセハムシハナカミキリ  
吉備郡昭和町槻 12 exs., 29. IV.  
新見市鬼女洞前 6 exs., 3. V.  
いずれもカエデ花上。槻ではカエデの花に本種1種が集つていたにすぎないが、鬼女洞前では次種などと混生
4. *Acnaeops (Dinaptera) minuta* (Gebler, 1832) ヒナルリハナカミキリ  
新見市鬼女洞前 4 exs., 3. V. カエデ花上
5. *Pidonia (Pseudopidonia) omentata* (Bates, 1884) セスジヒメハナカミキリ  
新見市鬼女洞前 3 exs., 3. V. カエデ花上.

## CERAMBYCINAE カミキリ亜科

6. *Pseudaolesthes chrysothrix* (Bates, 1873) キマダラヤマカミキリ  
都窪郡音村黒田 1 ex., 10. VI.  
コナラ林林縁の草上.
7. *Leontium viride* Thomson, 1864 ホソアオカミキリ  
吉備郡昭和町滝山 1 ex., 20. V. 花上.  
高梁市玉川町大成 1 ex., 17. VI. 薪
8. *Callidium (Palaeocallidium) rufipenne* Motschulsky, 1860 ヒメスギカミキリ  
吉備郡昭和町槻 2 exs., 29. IV. スギ材.
9. *Xylotrechus (Xyloclytus) chinensis* (Chevrolat, 1852) トラカミキリ  
新見市草野 8 exs., 25. VII.  
大きな桑園はないが、井倉峽の谷壁から草間にかけて点々とクワが残つており、クワの樹幹葉上に普通に認められた。
10. *Clytus melampus* Bates, 1884 シラケトラカミキリ  
高梁市玉川町大成 2 exs., 17. VI. そだ.
11. *Cyrtoclytus caproides* (Bates, 1873) キスジトラカミキリ  
高梁市玉川町勘場 1 ex., 17. VI. 薪
12. *Chlorophorus japonicus* (Chevrolat, 1863) エグリトラカミキリ  
吉備郡昭和町滝山 1 ex., 20. V. 花上.

- 高梁市玉川町大成 1 ex., 17. VI. 薪.
13. *Chlorophorus notabilis* (Pascoe, 1862) アヤモントラカミキリ  
高梁市玉川町大成 1 ex., 17. VI. クリの花上.  
都窪郡清音村黒田 1 ex., 24. VI. 薪.
14. *Haphsanti diminuta* (Bates, 1873) ヒメホソトラカミキリ  
新見市鬼女洞前 3 exs., 3. V. カエデ花上.
15. *Dere thoracica* White, 1855 ホタルカミキリ  
吉備郡昭和町槻 1 ex., 29. IV. 薪.  
吉備郡昭和田滝山 3 exs., 20. VI. そだ.
16. *Parpuricenus (Sternoplistes) teminckii* Guérin - Méneville, 1844 ベニカミキリ  
都窪郡清音村黒田 1 ex., 10. VI.  
高梁市玉川町笠根 2 exs., 17. VI. 飛翔中.

## LAMIINAE フトカミキリ亜科

17. *rac bimaculata* Thomson, 1864 ヤハズカミキリ  
都窪郡清音村黒田 1 ex., 10. VI. そだ.
18. *Monochamus (s.str.) subfasciatus subfasciatus* Bates, 1873 ヒメヒゲナガカミキリ  
高梁市玉川町大成 1 ex., 17. VI. 薪.
19. *Apriona germari japonica* Thomson, 1878 クワカミキリ  
高梁市玉川町上神崎 1 ex., 17. VI. イチヂク.
20. *Mesosa (s.str.) myops japonica* Bates, 1873 ゴマフカミキリ  
吉備郡昭和田滝山 1 ex., 20. V. そだ.  
高梁市玉川町大成 1 ex., 17. VI. 薪.  
都窪郡清音村黒田 1 ex., 24. VI. 薪.
21. *Mesosa (Aphelocnemia) longipennis* Bates, 1873 ナガゴマフカミキリ  
高梁市玉川町大成 2 exs., 17. VI.; 1 ex., 8. VII.  
都窪郡清音村黒田 1 ex., 24. VI. 薪.
22. *Olenecamptus octopustulatus formosanus* Pic, 1914 タカサゴムネボソシロカミキリ  
高梁市玉川町大成 8 exs., 17. VI.  
吉備高原を侵食した谷の南斜面中腹に自生するノグルミに多く発生。枝をたたくか、咬することによって落下あるいは飛翔する。
23. *Pterolophia leiopodina* (Bates, 1873) シロオビサビカミキリ  
吉備郡昭和田滝山 1 ex., 20. V. そだ.
24. *Pterolophia rigida* (Bates, 1873) アトモンサビカミキリ  
吉備郡昭和田滝山 15 exs., 20. V. そだ.  
都窪郡清音村黒田 1 ex., 10. VI. そだ.
25. *Pterolophia zonata* (Bates, 1873) オジロサビカミキリ  
都窪郡清音村黒田 26 exs., 10. VI.; 3 exs., 24. VI.  
高梁市玉川町大成 3 exs., 17. VI.  
いずれも、そだ.
26. *Microlera ptinoides* Bates, 1873 ヒシカミキリ  
吉備郡昭和田滝山 5 exs., 20. V. そだ.
27. *Asaperda rufipes* Bates, 1873 キクスイモドキカミキリ  
倉敷市浅原 2 exs., 6. V. フジ生木.  
吉備郡昭和田滝山 4 exs., 20. V. そだ.  
都窪郡清音村黒田 1 ex., 24. VI. そだ.
28. *Alimra japonica* Bates, 1873 ツマキキレバネツツチビカミキリ  
吉備郡昭和田滝山 1 ex., 20. V. 葉上.
29. *Glenea (s.str.) relicta* Pascoe, 1858 シラホシカミキリ  
吉備郡昭和田滝山 1 ex., 20. V.

30. *Nipserha marginella* (Bates, 1873) ヘリドロリングカミキリ  
高梁市玉川町上神崎 1 ex., 17. VI.
31. *Obera japonica* (Thunberg, 1787) リングカミキリ  
倉敷市福田町福田 1 ex., 12. V. 飛翔中.
32. *Obera mixta* Bates, 1873 ニセリングカミキリ  
都窪郡清音村黒田 1 ex., 10. VI. 飛翔中.
33. *Obera vittata* Blesig, 1873 ウスグロリングカミキリ  
吉備郡昭和町滝山 2 exs., 10. V. 飛翔中.  
高梁市玉川町上神崎 1 ex., 17. VI. 飛翔中.
34. *Phytoecia (s.str.) rufiventris* Gautier d. Cottet, 1870 キクスイカミキリ  
吉備郡昭和町滝山 1 ex., 20. V. ヨモギ
35. *Phytoecia (Epiplena) cones* (Bates, 1884) コツキボシカミキリ  
高梁市玉川町大成 1 ex., 17. VI. 葉上.

## 1961年及び1962年に採集したトンボ10種

重 井 博

筆者が1961年より1962年にかけて、岡山県(主として備中地区)で採集したトンボのうち、個体数が少いか、又は産地のやゝ限局している10種を選んで報告する。尚種々の御教示をいただいた林遊一氏に謝意を表します。

1. *Nihonogomphus viridis* OGUMA アオサナエ  
1♂・倉敷市日間山, VI. 25. 1961, 林間にて。
2. *Sinogomphus flavolimbatus* OGUMA ヒメサナエ  
1♂, 川上郡成羽町天神山, VII. 13. 1961, 小溪流にて。
3. *Epilthea marginata* SELYS トラフトンボ  
1♀, 総社市新本, V. 5. 1962, 山間湿地にて。
4. *Somatochlova uchidai* FOERSTER タカネトンボ  
1♂, 川上郡備中町磐船溪, IV. 9. 1962, 小ダムの池上にて。
5. *Nimophya pygmaea* RAMBUR ハンチヨウトンボ  
1♀1♂, 都窪郡山手村, VI. 28. 1962, 山間湿地にて。
6. *Sympetrum visi* BARTENEFF リヌアカネ  
1♂, 倉敷市日間山, VII. 22. 1961, 林間にて。
7. *Sympetrum baccha natutiman* RIS コノシメトンボ  
1♀1♂, 英田郡東粟倉村行者山, VII. 29. 1962, 路傍の樹上にて。
8. *Sympetrum parvulum* BARTENEFF ヒメアカネ  
1♂, 都窪郡山手村下広谷, VI. 19. 1961, 路傍にて。  
1♂, 倉敷市日間山, VII. 22. 1961, 路傍にて。
9. *Sympetrum croceolum* SELYS キトンボ  
1♀, 都窪郡山手村下広谷, VII. 19. 1961, 池畔にて。
10. *Sympetrum gracile* OGUMA ナニワトンボ  
2♂, 倉敷市浅原, VII. 18. 1961, 池畔にて。

倉敷附近のヒメアカネ(*Sympetrum parvulum*)の記録

林 憲 一

本種はヒメマユタテアカネといわれていたこともある本邦最小のアカネで、マユタテアカネと一見区別の困難なものもあり、又比較的生意地が限られ、特に幼虫か他のアカネのように池に生息せず、浅い泥湿地であり、成虫の飛翔範囲も割合小さいため、分布はかなり広いにもかかわらず採集記録の少ないものである。

岡山県の記録としては「すすむし」に記載されている安東瑞夫氏による勝田町の1♂(Vol.6, No.2)と友野良一氏による御津町紙工での記録(Vol.6, No.4)の二件で、他に朝比奈先生の「日本の蜻蛉」に岡山市外(小村達夫氏採集)の記録と合せて三つの記録しかみあたらない状態である。

然し、千秋伊香の採集経験から必ずしも稀れなものではなく、倉敷附近の山間部にも塚境さえ探せばかなり採集出来るものと想像していた。

先ず、倉敷昆虫館の開館にあたり、蜻蛉目の整理をした結果、次の各地の標本があることが分つたので自著のものも含めて記録しておく。

倉敷市丸山	1958-Ⅱ-14	♂	友野良一氏採集
倉敷市田中下広谷	1961-Ⅱ-19	♂	中井博氏採集
倉敷市丸山	1961-Ⅱ-22	♀	中井博氏採集
倉敷市丸山安明寺	1962-Ⅱ-19	2♂3♀	筆者採集
倉敷市丸山	1962-Ⅱ-29	2♂1♀	筆者採集
倉敷市丸山	1962-Ⅱ-7	3♂2♀	筆者採集
倉敷市丸山	1962-Ⅱ-7	1♂1♀	安東瑞夫氏採集

なお、本種には体長の変化がかなりみられウスリー、高州のものは小型で、本邦でも呉市、京都市のものは後翅長20~22mmのものが記載されているが、上記標本の中、安明寺及丸高山のものは♀♀とも標本のものであるが、下広谷、丸高山のものは大形で、特に下広谷のものは♂♂であるのに、後翅長23mm、翅長27mmもあり一見マユタテアカネの小型のもののようにみえる。又反対に、黒田、鴨方のもものは♀♀共に翅長19mm、後翅長22mmで、大粒の原記載種に近いのではないかと考えられる。

## 今年の科学作品展に見られた蜂2・3

近 藤 光 宏

- 1) *Apulex ampens* Stål セナガアナバチ  
 VII・1・1962 1 ex 倉敷市内 老松小4年 山下俊和採集  
 VIII・28・1962 1 ex 倉敷市内 東小 亀高茂
- 本種が問題のゴキブリに寄生することは、知られているが、これで見ると、かなり活躍していることがわかる。
- 2) *Gasteruption thomsoni* Schletterer オオゴンボウヤセバチ  
 VI・10・1962 1 ex 倉敷市内 老松 山下俊和採集
  - 3) *Tyconex longicollis* Konow ヒラアソババチ  
 VII・15・1962 1 ex 倉敷市内 老松小 山下俊和採集  
 本来なら10月頃の発生であるのに採集者のデータを一応信頼すれば6月の記録はむしろい。
  - 4) *Urocerus japonicus* Smith ニホンキバチ  
 VI・1・1962 1 ex 倉敷市内 老松 山下俊和 採集

## 岡山県産蝶類分布資料の追加

———1959年中の採集行から———

青野孝昭

岡山県産の蝶類については、記録の正確なもののみをとりあげると、現在、ほぼ120種が知られ、県下に産する蝶のほとんどが発見され、報告されていると思われる。しかし、各種の県下における分布状態を知る資料はなお不足のように思われる。ここでは筆者が1959年中の採集行から得た採集記録のうち、一部を公けにして、分布資料の一助に供したいと思う。

## HESPERIIDAE セセリチョウ科

1. *Danio tethys daiseni* RILEY, 1921      ダイミヨウセセリ(南日本亜種)  
     真庭郡勝山町神庭      1 ex., 25. V.  
     高梁市玉川町上神崎      1 ex., 26. VII  
     新見市吉川      1 ex., 4. VII
2. *Thymelicus sylvaticus* (BREMER, 1861)      ヘリグロチャバネセセリ  
     高梁市臥牛山      1 ex., 28. VI.
3. *Ochlodes ochracea rikuchina* (BUTLER, 1878)      ヒメキマダラセセリ  
     真庭郡勝山町神庭      1 ex., 25. V.
4. *Pelopidas mathias oberthüri* EVANS, 1937      チャバネセセリ  
     都窪郡音音村黒田      1 ex., 5. XI.

## PAPILIONIDAE アゲハチョウ科

5. *Parnassius glacialis mikado* BRYK et EISNER, 1923      ウスバシロチョウ  
     真庭郡勝山町神庭      1 ♀, 25. V.      (表本州亜種)
6. *Pupilio nubilentus nubilentus* JANSON, 1877      オナガアゲハ  
     真庭郡勝山町神庭      1 ♀, 25. V.  
     高梁市玉川町下神崎      1 ♂, 26. VII.

## PIERIDAE シロチョウ科

7. *Gonepteryx niphaguru nipponica* VERITY, 1909      スジボソヤマキチョウ  
     新見市吉川      1 ♀(前田), 4. VII.  
     この記録は、当日、同行した前田喜四雄君の採集されたものであるが、かわつて記録しておく。

## LYCAENIDAE シジミチョウ科

8. *Ripala arata* (BREMER, 1861)      トラフシジミ  
     真庭郡勝山町神庭      1 ex., 25. V.  
     高梁市玉川町上神崎      1 ex., 26. VII
9. *Turaka hamada hamada* (DRUGSE, 1875)      ゴイシシジミ  
     新見市吉川      2 exs. (秋山), 4. VII.  
     この記録も同行の秋山博志君によつて採集されたものである。
10. *Niphandia fusca shijima* FRUHSTORFER, 1917      クロシジミ  
     高梁市玉川町笠根      1 ♂(森川), 1 ♂(土岐), 26. VII.  
     同行した森川, 土岐両君が1 ♂ずつ採集されたが採集場所は吉備高原上の草地で、アカマツ林とわずかのコナラが点在する環境である。本種は全県的に分布するが、採集記録は点々としてあり、高梁川流域の浸食谷からは、全く記録されていない。

11. *Zizina otis emelina* (DE L'ORZA, 1869) シルビアツジミ  
吉原郡足守町妙見山 1♂, 5. V.

### NYMPHALIDAE タテハチヨウ科

12. *Argynnis andryonene midas* BUTLER, 1866 クモガタヒヨウモン  
真庭郡勝山町神庭 1♂, 25. V.
13. *Idoga glorifica* FRUHSTORFER, 1909 アサマイチモンジ  
真庭郡勝山町神庭 1♂1♀, 25. V.  
新見市吉川 3 exs., 4. VII.
14. *Araschnia burejana strigosa* BUTLER, 1866 サカハチチヨウ  
高梁市玉川町大成 1 ex., 26. VII.
15. *Dichorragia nesimachus nesiotus* FRUHSTORFER, 1903 スミナガシ  
新見市吉川 1 ex. (秋山), 4. VII.  
同行の秋山博志君によつて採集された。
16. *Sasakia charonda charonda* (HEWITSON, 1863) オオムラサキ  
高梁市玉川町上神崎 1♀, 26. VII.  
新見市吉川 2♀, 4. VII.

## 私の標本箱から

### 赤 枝 一 弘

世の中にはアマチュア昆虫愛好家は多いが、人それぞれに特徴があり、分類するとハンター、コレクター、テクニシャン、リサーチヤー、の4タイプに分けられると思う。もちろんこの四つをかねそなえた人物が偉大な昆虫研究家となるわけであるが、なかなかそうはいかない。ハンターというのは山あるいは野に出て昆虫を採集する事に最大の喜びを感じている人達で、この中には珍種を追い人とあえて珍種を問わず純粋に自然と親しむ人との2派に分れる。このタイプの人の中には珍種が採れると報告はするが、採つた物は何年たつても三角紙につつまれたなりという事も多く、後者のタイプには全然報告もしない人も居る。

コレクターは、ただただ多くの変わった種を集めてをがめ、あるいは人に見せる事に最大の喜びを感じる人達で、別に自分で採らなくてもいいし、やまゝがこうじると大喜びをばたいて珍種を買うようになる。それだけにこの種の人達は種の分類にはくわしい人が多いし、貴重な標本が保存される事になるが学問的にはあまり貢献がない。

テクニシャンというのはひたすら見事な標本を作る事に精力を傾けている人達で、これ等の人達が作つた甲虫、蜂、等の標本は芸術の域に達しているといわれる。誰しもきれいな標本を見れば気持がよく、きれいな標本が作りたいと願うが、細かい神経と強い根気がないと、とうてい誰にでもできるというものではない。ただ甲虫等でも実際の研究にはあまり左右対称の標本は困る事もあるという。

最後に登場するのがリサーチヤー、つまり研究者で、この人達が一番ランクが上になる。直接昆虫学の進歩に貢献しているのはこの人達であるからである。けれどもこの人達の中には採集に出かける事もなく、人の採つた、人の作つた標本で、ひたすら研究しているあまり感心しない人も居る。ともかくアマチュアは無理にリサーチヤーになろうとしなくてもハンター、コレクター、テクニシャンに徹してもいいと思う。それがゆるされるのがアマチュアのいい所でもあると思う。

本会員の中にも色々のタイプの人があると思うが、ハンターにはいかにして採つたかという苦心がテクニシャンの人には標本を作る苦心談等があると思う。それ等を誌上で発表してもらえば面白いと思う。見事なカミキリの標本を持つておられる平田氏を訪ねて色々お話をうかがつた際、色々の採集の苦心談をきかせてくださつて、興味深かつたが、中でもオオトラカミキリ1種を採る事を目標に、



わざわざ時期を遅らせ、石槌だつたか登られて見事とらえた話等は非常に興味深くきかせてもらった。他の人にもそんな話があると思う。私は先の分類でどうもコレクターに入るらしく、ずつと蝶の標本を集めて来て大分集まつたが、その大部分は交換によつたものである。近ごろは交換はやつていないが、現在までに集めた種は、国内産だけで170種ぐらゐはあるかと思う。特別珍種といつては無いが、中には思い出深い種もある。それ等について述べてみたい。

#### ○タカネヒカゲ

本種は高山蝶の中でも手に入りにくい種である。(高山蝶ではベニヒカゲ、ミヤマモンキチヨウ、ミヤマシロチヨウ等が一番手に入りやすい)しかも私の標本は当時まだ未記録であつた白山産である。私達が白山に登つたのは3年前の1959年の事である。採集許可ももらつて登つたにもかかわらず、霧からの悪天候で、植物以外の採集はさつぱりであつた。しかしこの日金沢小学校のA氏(仮りにこう呼んでおく)に会つた。A氏は白山の主ともいつていゝ人で、毎年数回はかならず白山へ登るそうで、その日も頂山にある室堂の従業員へ、みやげの野菜をリュックにつめ、長靴姿に網を持つという軽装であつた。クロユリのある場所を教えてくれ、他にも未記録とされている、コマクサの群生地も知つてゐるが、発表すると絶滅するから、発表しないという事だつた。この日、大いに話かはずみ当時発刊されたT氏のヒメギフ写真集を批判し、あの中にはギフと考えられる写真が混つてゐるとか、葉の表面には卵を産めたと書いてあるが、自分が見た多くの例の中には、表面に産れたものも多数あつた。等と話されともかく自分は郵便配達にあまじ、自分が知つた知見は専門家に知らすだけで、私自身が表面に出て発表するつもりはないと話しておられた。最後に嵐で採集できないのを気毒かつて、前に採集した三角罐に残つていた、これは今の所未記録だかといつてタカネヒカゲとフジミドリシジミをくださったのである。

1960年に出た白水氏の日本産蝶類分布表にも、白山のある石川、岐阜県からはタカネは未記録である。

#### ○ヒロオビミドリシジミ

本種は県下でも青野、堀氏等によつて記録されているが、不幸にして私はまだ自分で採つた事はない。私の標本は鳥取産である。これは1958年の7月大山へ友人連と登つた日(夏休でも、日曜でもない日、しかも夏に黒い学生服を着て、さかんにネットをぶつてゐる中学生に、横手道で会つた。話してみると、なかなかわしく、きょうもゼフだけを目的に来たという事だつた。ヒロオビなら、自分の所ではわけなく手に入るから、送つてやるといつて別れたのであるが、その後手紙が来て、やゝシーズンがすぎ、いままでに採つたのは全部展翅してゐるので、あまり完全でないが、かんべんしてくれといふ事で標本を送つて来た。しかしそれを見ていたのが、堀氏の標本も、これはヒロオビだと分つたわけである。白水氏に見てもらつたらやはりヒロオビで、玉川が2の産地になつたわけである。

#### ○カバイロンジミ

この種は私が交換をはじめた最初のころ、始めて北海道の人とした交換で得た種で思い出深い。その時は本種をはじめホソバヒヨウモン、エゾスジグロ、エゾヒメ等の本州ではお目にかかれない珍種が続々と送られて来るので、驚喜したものである。なおカラフトヒヨウモンは大分以前にアサヒヒヨウモンは最近入手した。

#### ○フタスジチヨウ

多産地で有名な、日光戦場河原の標本と、北海道産種がある。北海道産の方が白おびがずつと広い。

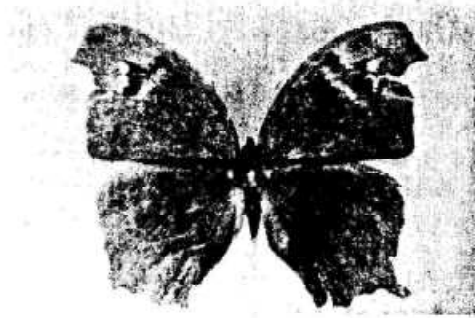
#### ○オオヒカゲ

一般に蝶の交換が盛んな地域は、交換欄を見れば分かるが、静岡、新潟、長野の3県である。この内新潟には本種は多いらしい。いくらでも送つてくれる。標本商の定価表を見ても、本種は本州産の他に、新潟産という定価が別に出ていて、新潟のはぐつと安くをつけてゐる。私の標本はその新潟産と、道後山で採集した物とがある。道後山産の方がずつと濃色である。

以上標本箱から2〜3の種を選び出し書いてみた。1つ1つの標本には、自分で採集したものはもちろん、交換したものは交換したもので、それぞれ思い出があるものである。

## おとしぶみ

(昆虫短報)

クロコノマチヨウを  
岡山市街で採集

1962年5月27日の夕方(7時30分頃)岡山市中之町平田光学器店内の電燈に飛来したクロコノマチヨウ秋型を採集しました。同地は岡山市でも、最も賑やかな所で、珍しい所だとれたものだと思います。(写真はクロコノマチヨウ)

(高原哲夫)

## 岡山市内でアキキマダラを採集

1962年7月7日、岡山市門田岡山大学付属中学校校内に飛来したアキキマダラを1頭採集しました。比較的早い記録だと思えます。

(高原哲夫)

高滝山付近の  
モンクロベニカミキリ

1962年5月20日、吉備郡昭和町高滝山の頂上の北西約1kmの地点でモンクロベニカミキリ1♀を採集しましたので報告します。

(高原哲夫)

ウラミスジジミを  
新見市で採集

1962年7月25日、筆者は新見市井倉より井倉峽の谷壁を登り、草間に至るコースで採集を試みた。その際、本種 *Wugino signata quercivora* (STAUDINGER, 1887) ウラミスジジミ(ケルンホーラ型)1♀を得ることができたので報告しておく。

採集地付近は壮早年期の急峻な谷を形成しており、比高300mの谷壁に九十九折の泉道が草間に向つてゆかりなこう配で登っている。谷壁の中腹、ちょうど中程あたりの泉道上に弱々しく舞いおろる紫色の蝶を見て網にしたのが本種であつた。

ちなみに、県下では既に、勝田郡那岐山、真庭郡蒜山、苫田郡上齊原村、真庭郡川上村が産地として報告されているが、いずれも県北の脊稜山脈地帯のものであり、今回の記録のみが、姫新線以南の吉備高原帯に属する点注目される。

また、本種の食樹としてはコナラ、クヌギ、ミズナラ、カシワなどのブナ科植物が知られているが、当地ではアベマキ、コナラ、ナラガシワは普通に見られるが、ミズナラ、カシワなどはその存在を、まだ、確認していない。いずれにしても、ウラミスジジミが当地で発生しているとすれば、何をその食樹としているか興味を持たれるところである。

(青野孝昭)

## 伯耆大山の

### オオクチキムシダマシ

1960年7月3日、伯耆大山で *Elacatis kraatzii* Reitter オオクチキムシダマシ 1 ex. を記録している。分布は日本全土にわたっているが、どの地域でも個体数はさして多くないようである。

(小野 洋)

## 臥牛山のムツボシテントウ

*Sticholitis punctata* Grotch ムツボシテントウは体長2.5mm内外、赤色で黒色の斑紋のある美しいテントウムシで、本州に分布することが知られている。県中部地域では次のような記録があるので報告しておく。

高梁市臥牛山 Ⅷ-6, 1952, 1 ex.

(小野 洋)

## 湯原町でスキカミキリ

1962, 4, 22 真庭郡湯原町の湯原ダムの下付近でギフチヨウを待つていたところ、本種 *Senanotus japonicus* Lacordaire スキカミキリがネットに飛来したので採集しました。本会の青野氏の言によれば、県下での記録はあまり多くないとのこと。4~5月に出現して産卵。付近にはスギ、ヒノキの切りかぶが沢山あり、まだ採集は可能のようである。

なお標本は、倉敷昆虫館に展示している。

(近藤 光宏)

## ヒラアシハバチ倉敷市に多発

1962年11月7日、倉敷市向山で、本種 *Groesus japonicus* Takouchi ヒラアシハバチの幼虫数頭を採集しました。

写真は、食餌中の本種で、おどろくと、尾部を8字形にまげる。後に示した写真は、加害された植樹です。さつそく本会の古居野寛氏に同定していただいたところオオバヤシヤブシであることがわかり、これは戦後にはけ山対策で、ニセアカシア等と共に、広く植樹されたもので、樹齢は、まだ若いものが多い。

その後、11月23日、24日、12月2日付近の植樹でもかをり発生していることがわかりその内数十頭を目下飼育中である。



北隆館日本幼虫図鑑には、「幼虫はハンノキを食し、年2世代5~6月及び9~10月に出現、但し秋世代のものが多い。体長は約2.2mm Argé 属(ミフシハバチ科)の如く集合して葉を縁より食し、主脈のみを残す性質がある」と述べられている。(写真は被害を受けたオオバヤシヤブシと休養中のヒラアシハバチ5齢幼虫)

(近藤 光宏)

## アミダテントウ高梁川流域に産す

*Arida triolor* Harold アミダテントウを高梁川中流の2カ所で採集しているので報告しておく。

1 ex., 高梁市方谷駅構内 3.V.1962

1 ex., 高梁市臥牛山 13.V.1962

いずれも、カエデをゆすついているうちに網にはいつたもので、食葉性かいたかについては何もわからない。

(青野 孝昭)

## 湯原にギフチョウを求めて

近 藤 光 宏



萩山原より北に大山を眺める

人物は右より坂本・重井・小野詔氏・筆者

ら萩山はもとより旭川ダム付近まで、道はかなり舗装されているが、これも団体のお蔭だな」「今年に春の訪れが10日位遅れているので、今日のギフチョウには丁度よいころだろう」と経験者は語るが、もう数年前の事である。「はたしてギフチョウが獲れるだろうか心配だな」と、最後は今日のたて役者ギフチョウの心配に落着くと我々勝手なことを想っている間に我が愛きは旭川ダムへと差し掛る。ここで一旦外気に触れる。身を引締められるような澄み切った空気は爽にうまい。ダムの上をこの足でコツコツ歩き乍ら、あたりを物色している気の早いお方もあるが何もいない。ここから旭川伝いに勝山へ向う。これまで勝山までの便は、汽車で来るより他ないので、このあたりの沿岸の風景は初めてお目に掛るわけである。勝山からは、もう説明するまでもないことである。何時来ても発電所の光景は、我々南部の者には珍しい。これを見ると、奥へ来たなど、はじめて県北へやって来たことを思い、虫君にもそろそろお目に掛れると、ネットに一段と力が入る。かつて本会の採集会で訪れた真賀ステーションを後に、愈々湯原溪谷へやって来た。旅館にみやげ物店。ちよつとした温泉町である。狭い空には、まだガスがかかっており、天気は気遣われてならない。メインストリートを抜けて、吊り橋の所で下車、腰をのばすと、すぐ目の前に雄々しいダムがそびえている。延々4時間走り続け、200kmを走破して見たダムの姿は特に印象的である。「大丈夫かな」と吊り橋をたたいて渡る者、川原にありて飛び石に掛けられた板橋を渡る者、少し上の方ではこれこそ天然の岩風呂から湯気が立ち、空に溶けて行く。すつかり解放された気持で、お風呂に入っているような気持である。向岸へ渡つた頃、やつと、日光が射してくる。今にもギフチョウが！と一同石ころの上や、草上に、リッソクをふろし、様々な格好で準備にかかる。小野氏は何時もの通り、重装備である。しばらく付近で採集、モンシロチョウ、スジグロチョウ、ツマキチョウ、ルリジミ、テングチョウ、アカタテハなどと蝶類はまだ少なかつたが、早春に期待をかけていたハバチを夏の併館を目して昆虫館用に早速ネット、ヒゲナガマルハバチ（本紙未発表）、クロムネハバチを採集することが出来、さいさきが良い。待っていたのが主のギフチョウは一向に姿をみせない。ので山路を少し登ってみることにした。暫く登つたところでスジボソヤマキチョウを採集する。その頃ノキ木林の中で食餌であるカンアオイを目撃、いよいよ出現も時節の問題、にわかにも心に帰つた思いであたりを見回す。四年前真賀、星山間で一頭目撃、神庭の滝でも一頭採集されるのを見たが、筆者のネットには入らず非常に残念な思いをしている。それから少し登つた所で追つたい

1962. 4. 22. 晴れ 私達有志 名 (重井, 背野, 小野, 近藤)は、朝もやの立ちこめる中を定刻にスタートした。それに今日のパイロット坂本氏 常になく明るい。それは、久振りに会えた喜びであり長い冬をいらいらしながら過ごし、やつとシーズンを迎えた同好者ならではの喜びでもある。エンジンの響もこうした我々の気持とよく調和して快よい。メーターは70キロをかるく越えていたようである。湯原へ行くのに果に向つて岡山市を通過する。「なんだか他へ行つているようでどうもびつたりしないな」「これからの採集はもうこれに限るな」「倉敷か

に、一見アゲハチョウの様なものが降りてくる。ギフチョウ！先頭にいた私は思わずネットを振る。最も安全な振り方である。慎重に振り降ろされたネットの中には間違いもなく本種1匹の姿を確認して戻つてこり、一刻して重井先生も1匹、採集される。ここで、河原での採集を含めて、計4匹を記録でき、所期の目的はかなえられた。殆ど完全なものばかりで昆虫館に納められる時を思うとうれしい。一行は一時頃一旦、車で引上げたが、ふと向岸の杉を伐採した跡の草原上にネットを構えている一人の同好家？を自覚、さつそく行つてみることにした。やつと急坂を登つて声をか打る。仲間に会えたようでうれしい。なんでも湯原高校の先生をされているとか、広島同好者会のまれてやはりギフチョウを待つていた。付近では結局ギフチョウを採集することは出来なかつたがスギカミキリを記録、登つたかいはあつた。昆虫館のこと等話をして下山、11時過ぎ湯原を後にした。ぐるぐるまわり道をして、小さなトンネルを過ぎるとこゝはもうダムの上である。旭川の時と同じ様にダムの視察をして、再び車上の人となる。「行つてみよう」「ここまで来たのだから」一行はどても元気である。思い切つて蒜山迄とばすことにした。付近の湖岸は非常に蛇行しており地図をなかなか進まない。人造湖それも新しい湖らしく、松の大木が水中からニョキニョキ出ている。水ぎわはまつたくない。もろもろの虫君も沢山水の犠牲となつたことであろう。このあたりで特に目についたのは生きていた化石といわれるメタセコイアを沢山植樹していることである。かなり走つてようやく天然の川の上をみせてくるころ、蒜山の山をみが視界に入る。蒜山といつても東西にはかなり広いので、途中学校・開発事務所？などでたすね、やつとセントラルロッジ（この秋焼失）のみえる高原にやつて来た。暫く登つて道はストップ、ここから見ると蒜山はもう高くない。大山も手にとどきそうである。中腹から真白い積雪が尾根と溪谷を区別して、くつきりときたつており、女性的といわれる蒜山とはあまりにも対称的である。まだ芽をふかない芝布の上で高原のビール、お弁当の味は格別すくにも身につくようである。この道が今少し伸びれば、大山日帰りも不可能ではない。快晴無風、四月の気温にしては最高であろう。高原の気分を満喫、いざさか心残りな思いで1時過ぎ帰途につく。ダム上流で今日五頭目のギフチョウを手にして……帰宅した頃は日もとつぷりとくれている。走行距離 450 Km名古屋へ行く位走つたとのこと。

12月19日 記

## 後山採集記

…小野 洋 ……………



朝の澄みきつた空気の中で、クラウンデラックスは一段とスピードを増した。新築の住宅が並ぶ中庄団地が右側の窓外を移へとぶ。はや国道2号線は中庄の陸橋へと差掛つていた。

今日(1962年7月29日)は、かねてから計画していた後山の昆虫調査の日である。後山(行者山1281m)は県最北部東端に位置し、泉下の最高峰として著名であるが、昆虫相に對する限りはまだまだ殆ど未開の地であり、殊に我々県南の者にとつては、時局的な問題などもあつて、普通ではなかなか訪れることが困難なところであつて、事実、倉敷からの一行の中には当地を調査したことのあつた者は1名もなかつた。それだけに早くから、本年における調査計画の中へ組込まれていて皆んなが心から今日の日を楽しみにして待つていたのである。

今朝、早くから計画どおり、重井先生宅前に集合、準備を整え、定刻午前6時勇躍出発したところである。一行は重井先生をけじめとして、林、青野、近藤の諸氏、運転手の方と筆者、計6名で後山では更に津山からの武内、道信両氏を加えて、計8名のメンバーになる予定であつた。

岡山街中を一気に通過、東へ東へと滑るように走る。天気はこれをならまあまといつたところ車中では今日の予想される獲物などについての話がはずみ、車内のすみすみまで楽しさで満たされているかのようである。やがて、新しいレールと平行する。向もをく開通する赤穂線である。臨前町片上から北上を始めた。和気までの間に、いくらか山がかつたところがあつて窓外に目を凝らす。かがきあたりから一層豊かになつてきた樹相を眺めては腕をさすつている。湯郷温泉を左に見

江見で遂に姫新線を越えて北側に出了。大原町に入ると、さすがに四方の峰々はぐーんと高く、近くに迫り、山はだの樹相はまことに結構で一行思わずニマリ。ここで路傍にて小休止中の武内、通信両氏にお会した。栗栗倉村に入り車が進むところまで入りこんだ。両氏が到着されるまでに少しばかり時間があるので、採集準備をして付近をあさることにした。林氏がはや、双眼鏡を手に彼方の獲物をにらんでおられる。そこらあたりをビーティングするとトビハムシ類が沢山入ってくる。カワリヒゲナガハムシ、ホタルハムシも多い。白いものがちらちらするのはスジグロシロチヨウである。村の子供が2人もの珍しそうに寄つて来て眺めている。彼らはさつきから両手にミヤマクワガタをつまんだまま話しかけてくる。やがて8名が勢ぞろいしたので登り始めた。さつきの子供達が別れぎわにミヤマクワガタをおみやげにくれた。ゴイシジミ、サカハチチヨウ、イチモンジチヨウなどが現われて皆んなのネットが盛んに動く。さて、これからだ！意気込んでビーティングを続けていく。好適な場所が多いとどうしても皆んなより遅れがちになるので、手早く吸込んで、追つかける。未知の地域なので、はぐれては大変である。細い道がうねうねと曲つて続いていてなかなか皆んなが見えない。近藤氏がハチを探つてやゝ遅れているのであろう。時折前方の葉の間から白いネットがちらつく。追いつくとギンイチモンジセリなどを網にしたらしい様子。やがてかなりうつせうとしたところへ出た。あちこちでヒカゲチヨウが地味な色彩の翅をひらひらさせている。やはりこゝでもトゲカメムシ、マルカメムシなどが多発している。狭い谷川にそつて足を運ぶと水の音、小鳥の声が耳をなでて、ぐつと深山に入り込んだ感じになつた。このあたりでアオカメノコハムシを1個体採る。トンボは期待していたが、あまり種類が多くないようで、今のところカワトンボ、コノシメトンボ、ナツアカネ、アキアカネぐらいのところらしい。ビーティングネットにさつきから、キイロカミキリモドキ、ウリハムシモドキ、ハムシダマシ、シラホシテントウ、ウスモンオトシブミ、スジコガネなどが落ちてくる。女人堂でしばらく休憩、緑したたるムードにひたる。重井先生がヨツボシナガツツハムシを採られる。女人堂から先は女性及不浄の者登れないことになつているらしい。道はいくらか急であるが、なかなか気分は快適で、谷川にそつてかなり進んだが、目標の権現堂はなかなか見えない。遂に待ち切れなくなつたので、やゝ開けたところを選んで、昼食をつた。谷川の水で冷やした罐ビールはこの上ない馳走であつた。林氏は目的にしたヒメサナエがいなくて残念そうな様子であつた。権現堂までは是非でもということになつて、道無き道をふみ分けて登つた。しまいに谷間の大きな岩が重なり合うようにごどごどしているものすごいところを、足を一ぱいに開いて、這うようにして登つた。皆んな立止つては大息をついている。もはやネットは手に持つているだけで、一向に働きを見せない状態におち入つていた。

権現堂からの眺めはまた素晴しかつた。しばらく休憩して、皆んなそこにあつた大きな鉄製の下駄をのいてみる。足を上げるだけが大変である。よいしょよいしょと歩を運んで汗をかく愉快な一コマをカメラにおさめる。記念撮影をして下山することになつたが、武内、通信両氏は予定どおりここで自炊をして一泊され、更に翌日も採集を経られる様子。青野氏は都合で一泊を考えていたが、宿泊所の状態が予期していたものと全く違つたので、恐れをなして帰ることにしたらしい。ここで両氏にお別れをして採集しながら下山した。(後程の連絡によると両氏はこの夜及び翌日にかけての採集でかなり収穫をあげられたようでウラキンジミなども記録できた様子である。)

近藤氏はハバチ類を中心に採集されたが、若干、目ぼしいものが記録できたとのこと。モンキツノカメムシを1個体採集していたが、落として残念であつたともらしていた。

終幕に至つてマルガタハナカミキリ、オオトラフコガネなどを記録できたのはよかつた。

後山付近では好天に恵まれる日は少ないものようで今日も曇雨では、かなり好かつたが当地域では、曇りがちで、絶好とは云えなかつた。それと時期的な関係もあつてか、どうも総体的に個体数は多くなかつたように見受けられた。

しかし初めての地域でネットをふつて、山の地形や植物相など、この山が持つているいくらかのものを、いろいろとじかに見ることができ、手につて調べることが出来たのは本当にこの上ない収穫であつたし、大きな喜びでもあつた。又皆んなの手で調査できた昆虫の中には、種々な面から見てかなり注目すべきものも含まれていたようで、真に本日の調査の意義は大きいものがあつた。

いろいろと考えながら車のところへ戻つたがもう今朝ほどの子供達の姿は見ることができなかつた。乗車して入付のある里迄出て、そこの店頭で、喉をうるおしたのが又実においしかつた。いつ

のまに喉が潤ききつていたらしい。

それから3時間程後には、我々一行は既に暗くなりかけて、あちこちと水銀燈がまばゆく輝きだした国道2号線上を西へ西へと一路直敷へ飛ぶように走っていた。

## 会 報

### ☆新着交換雑誌☆

Odonata	14	1961. Ⅻ. 31	日本蜻蛉同好会
北信昆虫	7	1960. Ⅷ. 25	北信昆虫同好会
蛾類通信	27	1962. Ⅵ. 10	日本蛾類学会
蛾類通信	28	1962. Ⅷ. 30	日本蛾類学会
蛾類通信	29	1962. Ⅷ. 30	日本蛾類学会
北九州の昆虫	8(1)	1962. Ⅶ. 20	北九州昆虫趣味の会
北九州の昆虫	8(2)	1961. Ⅶ. 31	北九州昆虫趣味の会
北九州の昆虫	8(3)	1961. Ⅻ. 20	北九州昆虫趣味の会
WORMSHIP	61	1962. Ⅱ. 31	北九州昆虫趣味の会
駿河の昆虫	36	1961. Ⅻ. 31	静岡昆虫同好会
駿河の昆虫	37	1962. Ⅳ. 30	静岡昆虫同好会
インセクト	13(1)	1962. Ⅸ. 16	昆虫愛好会
生物研究部誌創刊号		1962. Ⅵ. 30	築上農業高等学校生物研究部

### 大山採集会

造, 山砥司朗, 渡辺忠孝, 渡辺哲二, (写真は大  
山採集会参加者)

1962年6月30日(土), 7月1日(日)と  
1泊2日の大山採集会は, 16名の参加者によつ  
て盛大な採集会となつた。ほとんど全員, 急行  
大山号で土曜日の午後出発, 大山寺の国鉄山の



家に宿泊, 当夜の夜間採集と, 翌日早朝からの  
元谷, 横手道方面の採集を楽しんだ。とくに, 夜  
間, 手に手に継高網をふりかざした1団が水銀  
燈を占拠するに及んだときは他の同好採集者の  
心胆を寒からしめた様子であつた。参加者は次  
の通り。

青野孝昭, 大野勉一, 大森齊, 小野洋, 河辺  
誠一郎, 近藤光宏, 佐藤英信, 高橋友治, 高原  
哲夫, 竹内幸夫, 吉田貢一, 守屋雅之, 山下恵

## 目 次

竹内 幸夫	美作地方のコガネムシ類目録 .....	1
青野 孝昭	備中産カミキリ採集品目録(1962年度) .....	3
重井 博	1961年及び1962年に採集したトンボ10種 .....	5
林 憲一	倉敷付近のヒメアカネ <i>Cynpeticus parvulum</i> の記録 .....	6
近藤 光宏	今年の科学作品展に見られた蜂2・3 .....	6
青野 孝昭	岡山県産蝶類分布資料の追加 ———1959年中の採集行から——— .....	7
赤枝 一弘	私の標本箱から .....	8
高原 哲夫	クロコノマチヨウを岡山市街で採集 .....	10
高原 哲夫	岡山市内でアサギマダラを採集 .....	10
高原 哲夫	高滝山付近のモンクロベニカミキリ .....	10
青野 孝昭	ウラミスジジミを新見市で採集 .....	10
小野 洋	伯耆大山のオオクチキムシダマシ .....	11
小野 洋	臥牛山のムツボシテントウ .....	11
近藤 光宏	湯原町でスギカミキリ .....	11
近藤 光宏	ヒラアツハバチ倉敷市に多発 .....	11
青野 孝昭	アミダテントウを高梁川流域で記録 .....	11
近藤 光宏	湯原にギアテヨウを求めて .....	12
小野 洋	後山採集記 .....	13
	会 報 .....	15

医療法人

重 井 病 院

倉敷市幸町 TEL 2975・3215